



# はしかみ 気仙沼市立階上中学校の取組

宮城県気仙沼市立階上中学校 校長 今野 勝美



## 1 階上中学校少年消防クラブ

本校は、平成17年度から気仙沼市危機管理課、気仙沼市消防本部の指導の下、防災学習の授業として“総合的な学習の時間”において年間35時間のカリキュラムを作成し、3年かけて「自助」・「共助」・「公助」について学習しています。少年消防クラブには、それと同時期に全校生徒で加盟しています。

## 2 東日本大震災を経験して

発災直後、海拔31メートルの高台にある本校及び体育館には、多くの避難者が押し寄せてきました。当初、職員と地域の有志で校庭の駐車スペースの割当てや、体育館避難所の設営など少人数で対応していたところに、本校出身の高校生が駆け付け、支援物資の搬入や炊き出しへの協力など、献身的な取り組みをしてくれました。中学生もそれをまねして活動していた姿は、正に、これまでの取組の成果であると感じています。

一方、当地域における津波被害の犠牲者が気仙沼市で一番多かったのも事実です。学校でいくら防災学習を行っても地域にまで浸透していなかったのです。考えてみれば、子どもたちが学校にいる時間は1日のうちの3分の1程度であり、家庭や地域で過ごす時間が多いことから、地域防災についても考える必要が出てきました。



炊き出しをする卒業生

## 3 階上地区防災教育推進委員会の設立

平成24年に当時の校長と自治会長との話し合いで、地域防災の強化を目的として設立しました。今年度は、区内保育所や小中学校、振興協議会、公的機関なども加わり、約40名で構成しています。活動としては年3回の会議と11月上旬に実施する総合防災訓練における区内の取組方の確認です。総合防災訓練の日は休日ですが、学校は授業日に振り替えています。午前中は家族とともに地区毎の一次避難所へ避難し、避難者リスト作成や小学生のお世話など、中学生としての役割を分担されているので、それを行います。午後は階上中学校体育館で中学生に



階上地区防災教育推進委員会の様子

よる避難所設営訓練を実施します。小学6年生と中学生は設営側に、それ以外の小学生は避難者として、階上地区防災教育推進委員にはその様子を見学していただき、アドバイスをお願いしています。



家族で地区毎の避難場所へ



避難所における中学生の役割

#### 4 少年消防クラブの活動が 学力向上に寄与

3年に1度は本格的な少年消防クラブとしての各種活動を行っています。特に規律訓練は生徒指導上とても有効であり、それが礼儀作法や集団行動だけではなく、



規律訓練の様子

授業中の集中力や取り組む態度に好影響を及ぼし、学力向上にも一役を担っていると感じています。

#### 5 未来の防災戦士として

昨年2月、下校途中に本校女子中学生4人が民家の小火を発見し、一人は消防署に通報、残る3人は近隣住民に呼びかけ、バケツリレーで消火作業を行った結果、大事にいたらなかったというようなことがありました。その女子生徒たちは、新聞記者の取材に対して「学習したことを実践しただけです。」と答えましたが、“知る”“備える”“行動する”を軸とした実践的な防災学習の成果であると思います。今年の6月には、本校防災学習を学んだ1期生男女3人が地元の消防団に入隊し、ニュースになりました。本校で防災学習を学んだ生徒は、『未来の防災戦士』として、自分の身を災害から守り、「救助される人」から「救助する人」として、将来、自分の置かれた立場で地域貢献してくれるものと信じてやみません。



卒業生が地元消防団へ入隊

